

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月13日

上場会社名 ソーシャル・エコロジー・プロジェクト株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6819 URL <http://www.social-eco.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小松 裕介
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室 (氏名) 岩井 俊輔 (TEL) 03(5786)3900
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,184	3.2	28	14.3	45	121.2	37	△71.8
25年3月期第2四半期	1,147	△4.0	24	△41.9	20	△59.8	131	186.6

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 33百万円(△76.3%) 25年3月期第2四半期 143百万円(298.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	1.49	—
25年3月期第2四半期	6.12	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,148	597	52.0
25年3月期	1,070	298	27.9

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 597百万円 25年3月期 298百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0	—	0	0
26年3月期	—	0	—	0	0
26年3月期(予想)	—	—	—	0	0

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,121	2.9	35	258.6	31	△13.9	30	△80.9	1.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社、除外 一社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期2Q	26,496,537株	25年3月期	21,496,537株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	18,803株	25年3月期	17,923株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期2Q	24,756,712株	25年3月期2Q	21,479,318株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	14
(セグメント情報等)	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策・金融緩和策など各種政策の効果から企業収益に改善が見られるなど明るい兆しが表れているものの世界情勢の不安定な状況や消費税増税等に対する不安感から、依然として景気の先行きが不透明な状況で推移しております。

このような状況下、当社が展開するレジャー事業では、安定した集客数と売上確保に努め、更なる経費削減を実施しております。映像・音盤関連事業では、継続してCM制作受注に努めております。また投資事業では、引き続き過去に投資した債権の回収を図っております。リスクマネジメントの観点から事業ポートフォリオの再構築についても適宜検討しております。

なお、当第2四半期連結累計期間は、過去から継続している訴訟案件の他、平成25年7月24日付の地位保全仮処分命令の申立てなどに対する訴訟関連費用が合計28,747千円（前年同期四半期は6,466千円）、また株主総会運営費用が15,218千円（前年同期四半期は3,701千円）となっております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高11億84百万円（前年同期四半期に比べ3.2%増）、営業利益28百万円（前年同期四半期に比べ14.3%増）、経常利益45百万円（前年同期四半期に比べ121.2%増）、四半期純利益37百万円（前年同期四半期に比べ71.8%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間の概況をセグメント別に申し上げますと次のとおりであります。

(レジャー事業)

レジャー事業では、以下の売上向上施策を行いました。

伊豆シャボテン公園では、クロカンガルー「リキ」、ミナミコアリクイ「ココア」、ミーアキャット「はな」の来園やリスザル、パルマワラビー、マーラ、ブラジルバク及びインドクジャクの赤ちゃん誕生など新規動物の導入、当園を代表する人気動物となったカピバラに関するイベント「カピバラファミリーにとうもろこしをプレゼント!!～コーンなカピバラ見たことない～」の実施、どうぶつ学習発表会の新ステージ「ドッグパーティーdeアミーゴ!」の本デビュー、また新進気鋭のクリエイターであるフォトグラファーのKENTA AMINAKA氏、デザイナーの蒲生和典氏及びコピーライターの金そよん氏に依頼し、今までにないクリエイティブで洗練されたブランディング・ポスターの制作をしました。伊豆ぐらんぱる公園では、「パークゴルフの日（8月9日）」イベントを実施し、国内最大級のメガウォーターロールを導入いたしました。伊豆四季の花公園では、平成25年7月13日に開園50周年を迎えることを記念して「開園50周年記念花フェスタ」を実施、開園50周年のアニバーサリーイヤーを四季に合わせ4つの期間に区切り、「Summer（7月・8月）」は開園50周年記念入園料金特別割引の実施、「Autumn（9月から11月まで）」はチョコレートコスモスとチョコレートの香りの競演を行い集客に努めました。伊豆海洋公園ダイビングセンターでは、撮影した写真が必ず雑誌に掲載されるイベント「とるのるフォトin伊豆海洋公園」の実施など集客に努めました。また伊豆高原旅の駅ぐらんぱるぼーとでは、定期的にフリーマーケットを開催いたしました。

この結果、レジャー事業では、売上高11億33百万円（前年同期四半期比3.8%増）営業利益65百万円（前年同期四半期比25.2%増）となりました。

(映像・音盤関連事業)

映像・音盤関連事業では、CM制作による売上や当社が保有するコンテンツの二次使用による著作権収入がありました。

この結果、映像・音盤関連事業では、売上高50百万円（前年同期四半期比8.3%減）営業損失14百万円

(前年同四半期連結累計期間は営業損失21百万円) となりました。

(投資事業)

投資事業では、具体的な投資案件はありませんでした。

この結果、投資事業では、売上高はありませんでした。

(その他)

その他の事業では、売上高0百万円でした。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて47百万円増加し、2億93百万円となりました。これは主として、売掛金が26百万円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて31百万円増加し、8億54百万円となりました。これは主として、建物及び構築物が17百万円増加したこと等によります。

この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べて78百万円増加し、11億48百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億88百万円減少し、3億76百万円となりました。これは主として、短期借入金が1億13百万円減少したこと等によります。なお、公租公課の未払金は71百万円減少いたしました。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて32百万円減少し、1億74百万円となりました。これは主として、退職給付引当金が29百万円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億20百万円減少し、5億51百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、5億97百万円となりました。

また、自己資本比率は前連結会計年度末の27.9%から52.0%となりました。

(キャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ6百万円減少し、1億48百万円(前年度四半期は1億91百万円)となりました。

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は、52百万円となりました。これは主として、その他の流動負債の減少によるものであります。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は、1億5百万円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、獲得した資金は1億51百万円となりました。これは主として、株式発行による収入によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年5月10日に発表しました平成26年3月期通期の連結業績予想は、現時点では不確定要素もありますが、当第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案した結果、現時点での見直しを行いません。ま

た平成26年3月期通期の個別業績予想は修正いたしました。

なお、詳細につきましては、平成25年11月12日に公表いたしました「営業外収益及び特別損失の発生並びに業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

1 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度の減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

1 税金費用の計算

当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効率を乗じて計算する方法を採用しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成25年3月期におきまして営業利益9,759千円を計上し7年ぶりに営業利益の黒字化を達成し、当第2四半期連結累計期間においても営業利益28,324千円、経常利益45,562千円、四半期純利益37,009千円を計上いたしました。しかしながら、営業キャッシュ・フローはマイナスであり、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在します。

ただし、「第4(4)継続企業の前提に関する注記」に記載のとおり、当該重要事象等を解消するための改善策を実施しているため、将来的に継続企業の前提に関する重要な疑義は解消され则认为しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	154,343	148,276
売掛金	18,622	45,505
未収入金	455	59
商品等	11,656	16,325
短期貸付金	—	21,818
その他	62,802	74,318
貸倒引当金	△1,103	△12,433
流動資産合計	246,777	293,871
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	386,789	404,538
土地	270,252	270,252
その他	59,655	68,102
有形固定資産合計	716,696	742,892
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	—	8,000
無形固定資産合計	—	8,000
投資その他の資産		
投資有価証券	90,465	73,990
長期貸付金	24,090	20,750
長期化営業債権	97,111	99,611
破産更生債権等	2,466	2,466
その他	16,465	29,969
貸倒引当金	△123,667	△122,827
投資その他の資産合計	106,930	103,960
固定資産合計	823,627	854,852
資産合計	1,070,404	1,148,724

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	56,376	73,456
短期借入金	113,139	—
未払金	306,066	224,882
前受金	10,777	10,073
預り金	11,356	8,532
未払法人税等	5,311	5,417
賞与引当金	16,116	20,277
債務保証損失引当金	20,000	20,000
その他	25,802	13,803
流動負債合計	564,946	376,442
固定負債		
繰延税金負債	1,893	—
退職給付引当金	164,253	134,989
その他	40,819	39,939
固定負債合計	206,966	174,928
負債合計	771,913	551,371
純資産の部		
株主資本		
資本金	268,591	401,091
資本剰余金	—	132,500
利益剰余金	40,052	77,062
自己株式	△13,241	△13,301
株主資本合計	295,403	597,353
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,087	—
その他の包括利益累計額合計	3,087	—
純資産合計	298,491	597,353
負債純資産合計	1,070,404	1,148,724

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	1,147,626	1,184,594
売上原価	478,281	491,964
売上総利益	669,344	692,630
販売費及び一般管理費	644,565	664,306
営業利益	24,778	28,324
営業外収益		
受取利息	265	376
為替差益	—	2,387
償却債権取立益	300	250
退職給付引当金戻入益	—	20,351
その他	7,410	4,873
営業外収益合計	7,976	28,239
営業外費用		
支払利息	1,895	941
為替差損	10,264	—
貸倒引当金繰入額	—	10,060
営業外費用合計	12,159	11,001
経常利益	20,595	45,562
特別利益		
新株予約権戻入益	180	—
投資有価証券売却益	—	1,000
債務免除益	10,516	1,163
債務消滅益	101,354	3,900
特別利益合計	112,051	6,063
特別損失		
固定資産除却損	—	1,385
投資有価証券評価損	—	11,493
減損損失	289	—
特別損失合計	289	12,878
税金等調整前四半期純利益	132,357	38,746
法人税、住民税及び事業税	908	1,737
法人税等合計	908	1,737
少数株主損益調整前四半期純利益	131,448	37,009
四半期純利益	131,448	37,009

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	131,448	37,009
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,931	△3,087
その他の包括利益合計	11,931	△3,087
四半期包括利益	143,380	33,921
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	143,380	33,921
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	132,357	38,746
減価償却費	32,329	26,405
減損損失	289	—
のれん償却額	122	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△388	10,490
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△1,348	△29,264
賞与引当金の増減額(△は減少)	△15,329	4,161
新株予約権戻入益	△180	—
受取利息及び受取配当金	△265	△376
支払利息	1,895	941
為替差損益(△は益)	18	△15
投資有価証券評価損益(△は益)	—	11,493
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△1,000
償却債権取立益	△300	△250
債務免除益	△10,516	△1,163
債務消滅益	△101,354	△3,900
固定資産除却損	—	1,385
売上債権の増減額(△は増加)	△22,521	△23,337
たな卸資産の増減額(△は増加)	151	△766
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	△3,200	—
仕入債務の増減額(△は減少)	15,353	23,833
前渡金の増減額(△は増加)	—	50
その他の流動資産の増減額(△は増加)	7,057	△14,151
未収消費税等の増減額(△は増加)	16,587	7,562
その他の流動負債の増減額(△は減少)	52,095	△72,833
その他の固定資産の増減額(△は増加)	5,000	△11,000
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△380	△880
未払法人税等の増減額(△減少額)	1,775	△13,220
小計	109,246	△47,090
利息及び配当金の受取額	7	311
利息の支払額	△708	△3,960
法人税等の支払額	△1,280	△1,909
営業活動によるキャッシュ・フロー	107,265	△52,648

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	2,000	—
投資有価証券の取得による支出	—	△50,000
投資有価証券の売却による収入	—	51,000
有形固定資産の取得による支出	△41,611	△48,480
無形固定資産の取得による支出	—	△8,000
貸付けによる支出	△20,000	△64,100
貸付金の回収による収入	—	17,100
その他	△3,920	△2,719
投資活動によるキャッシュ・フロー	△63,531	△105,199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△70,002	△113,174
株式の発行による収入	—	265,000
その他	△11	△60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70,013	151,765
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△26,298	△6,066
現金及び現金同等物の期首残高	218,039	154,343
現金及び現金同等物の四半期末残高	191,741	148,276

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

当社グループは、「第3 継続企業の前提に関する重要事象等」に記載の当該状況を解消すべく、以下の対応策を講じ、取り組んでまいります。

グループ全体では、更なる“集中と選択”を行って、経営資源を集中して競争力の向上を目指します。引き続き経営効率を高め、グループ経営改革の実施を図るとともに、経費・人材配置の見直しやオペレーションの改善などにより、更なる販売費及び一般管理費の削減を図ります。また財務体質の強化、キャッシュ・フロー面における改善では、金融機関との連携の強化による手元資金の確保、保有資産の売却を行ってまいります。

レジャー事業では、(株)サボテンパークアンドリゾートや(株)伊豆四季の花・海洋公園が運営する各施設において、魅力的な公園施設の改善、アトラクションやイベントの拡充、物販の拡充、お客様満足度向上、効果的な宣伝広告を実施することにより集客力の強化を図ります。

伊豆シャボテン公園では昨年に引き続き「元祖カピバラの露天風呂」を中心に集客力向上を図ります。伊豆ぐらんぱる公園ではアスレチックやトランポリンなど小学生低学年を対象としたアトラクションの強化をしてまいります。伊豆四季の花公園では1年を通しての花イベントを目指し植樹植栽に注力します。伊豆海洋公園ダイビングセンターではブランド力を活かした営業を強化してまいります。また伊豆高原旅の駅ぐらんぱるぽーとでは有名店舗とのコラボレーションを通じて飲食店の強化を図ってまいります。

映像・音盤関連事業では、(株)FLACOCOのCM制作事業に注力します。

投資事業では、引き続き慎重に市場動向を見定めるとともに、事業育成及び既存の債権、保有資産の有効活用による収益の効率化を図ります。

これらの改善策を通じ黒字体質への転換を図ることで、将来的に継続企業の前提に関する重要な疑義は解消されると考えております。

しかしながら、上記の改善策をとるものの、当該改善策を進めるための資金調達計画の実行可能性において、不確実性があり、当該対応を行った上でもなお継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

前連結会計年度末に比して、以下のとおり株主資本の金額に著しい変動が認められます。

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	268,591	—	40,052	△13,241	295,403
当第2四半期連結会計期間末までの変動額					
新株の発行	132,500	132,500	—	—	265,000
四半期純利益	—	—	37,009	—	37,009
自己株式の取得	—	—	—	△60	△60
当第2四半期連結会計期間末までの変動額合計	132,500	132,500	37,009	△60	301,949
当第2四半期連結会計期間末残高	401,091	132,500	77,062	△13,301	597,353

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,092,005	55,173	—	1,147,178	447	1,147,626	—	1,147,626
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,342	—	57,142	60,485	17,142	77,627	△77,627	—
計	1,095,347	55,173	57,142	1,207,663	17,590	1,225,254	△77,627	1,147,626
セグメント利益 (△損失)	52,648	△21,328	△4,375	26,944	△2,166	24,778	—	24,778

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. 売上高の調整額△77,627千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	レジャー 事業	映像・音盤 関連事業	投資事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,133,655	50,567	—	1,184,222	372	1,184,594	—	1,184,594
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,285	—	57,142	60,428	17,498	77,927	△77,927	—
計	1,136,941	50,567	57,142	1,244,651	17,870	1,262,522	△77,927	1,184,594
セグメント利益 (△損失)	65,936	△14,138	△12,769	39,028	△11,161	27,867	457	28,324

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。
 2. 売上高の調整額△77,927千円は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整をおこなっております。